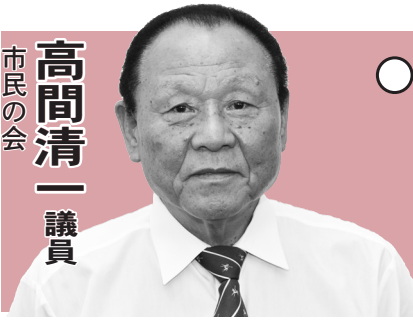


高間清一  
議員  
市民の会



## ○勝山市観光まちづくり株式会社について

**問** 平成30年度において、勝山市が観光まちづくり株式会社に委託した事業の件数と総額はいくらになるのか。また、同社は勝山市が市税を投じて出資しているが、同会社の資本金に対する勝山市の出資比率は何%になるのか。

現在勝山市が同社に出資している出資比率は24%となっている。出資比率を24%としたのは、株式会社としての同社の自主性をしっかりと発揮していただくことが最大の目的である。できるだけ市の関与の少ない数字の中で精一杯の出資ということでは24%とした。

また、当時の市議会でもこの件について議論はしたが、判断していただいている。

会社の経営状況等については、市議会の委員会等で報告をしている。

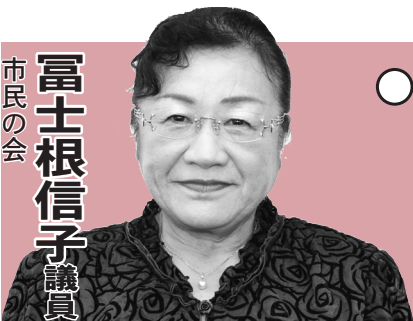
**答** 平成30年度に勝山市が勝山市観光まちづくり株式会社に委託した事業は5件、3480

万6548円となっている。

## ○生涯学習センター「友楽喜」の移転と今後について

そのほかの質問  
・福祉バスについて

富士根信子  
議員  
市民の会



**問** 人生100年時代、高齢者の増加により生きがいのある健康長寿のまちづくりは、これから重要な課題となる。

趣味や特技、文化、学習、スポーツ活動等、学びの場として生涯学習のできる環境を整えなければいけない。

現在最も利用率の高い友楽喜を移転し閉鎖する方針のようだが、人生の先輩達が生き生きと活発に活動できる、笑顔あふれるコミュニケーションの場が欲しい。「友楽喜」の存続について市の見解を伺いたい。

**答** 生涯学習センター

「友楽喜」の移転については、冷暖房やエレベーターなどの設備が整った市民会館や教育会館に機能集約・複合化すること

がサービスの質を維持しながら公共施設全体の効率化に資すること、また、市の中心部に位置することにより、市の南部の方々からは通行の便がさらに高まるということで、むしろ生涯学習センターの機能を高めるという判断に至ったものである。6月議会の際にも指摘があったが、利用者に対する説明に拙速な面があったことについては十分認識している。しかし長い目で見たときにどのような形が市民全体の生涯学習推進に役立つかも踏まえ、今後よく利用者と相談させていただいた上で、移転について考えていきたいと思っている。

今後、移転の期限を定めずに利用者と良く語りあって双方にとってベストとなる方向性を検討していきたい。